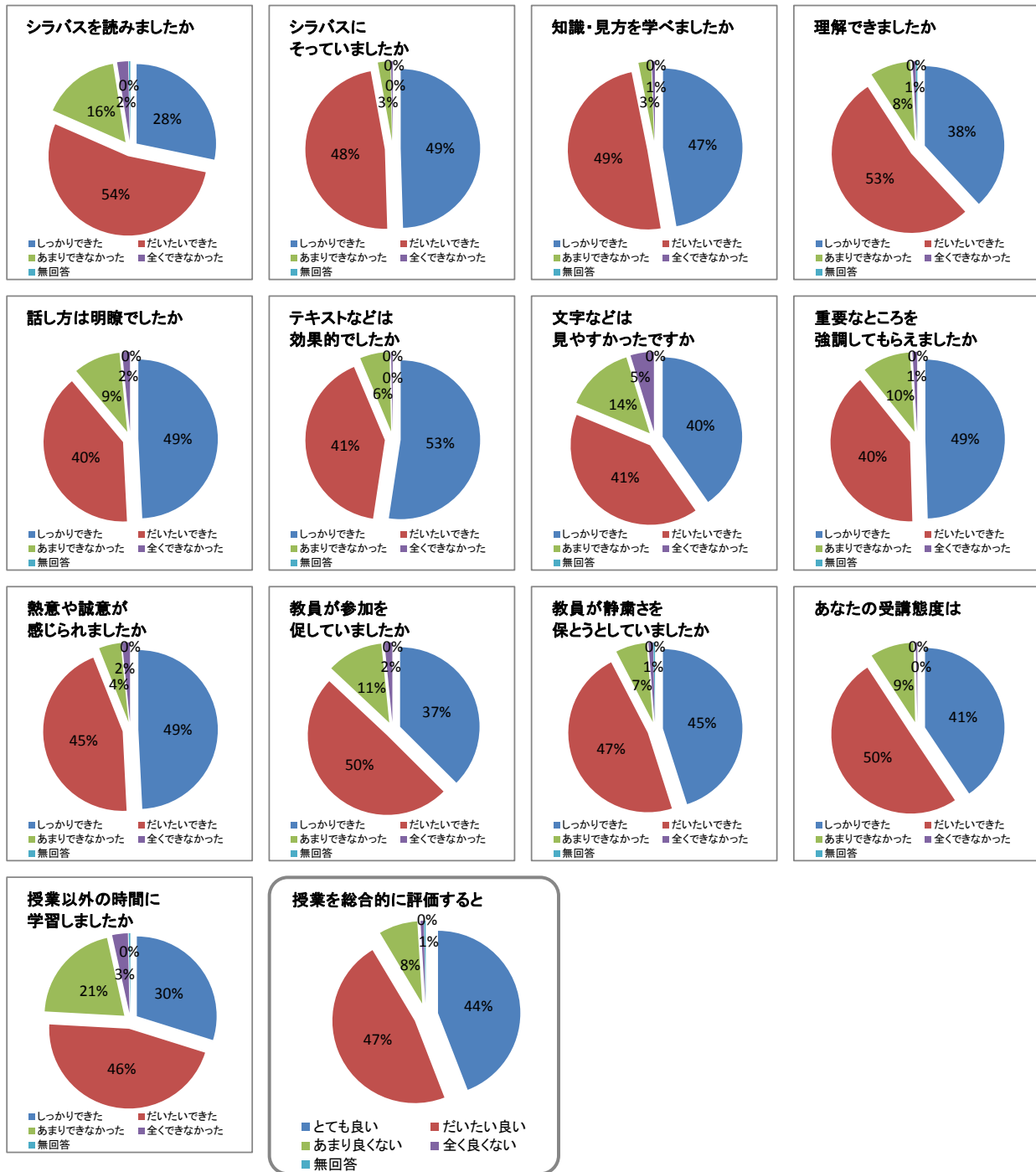


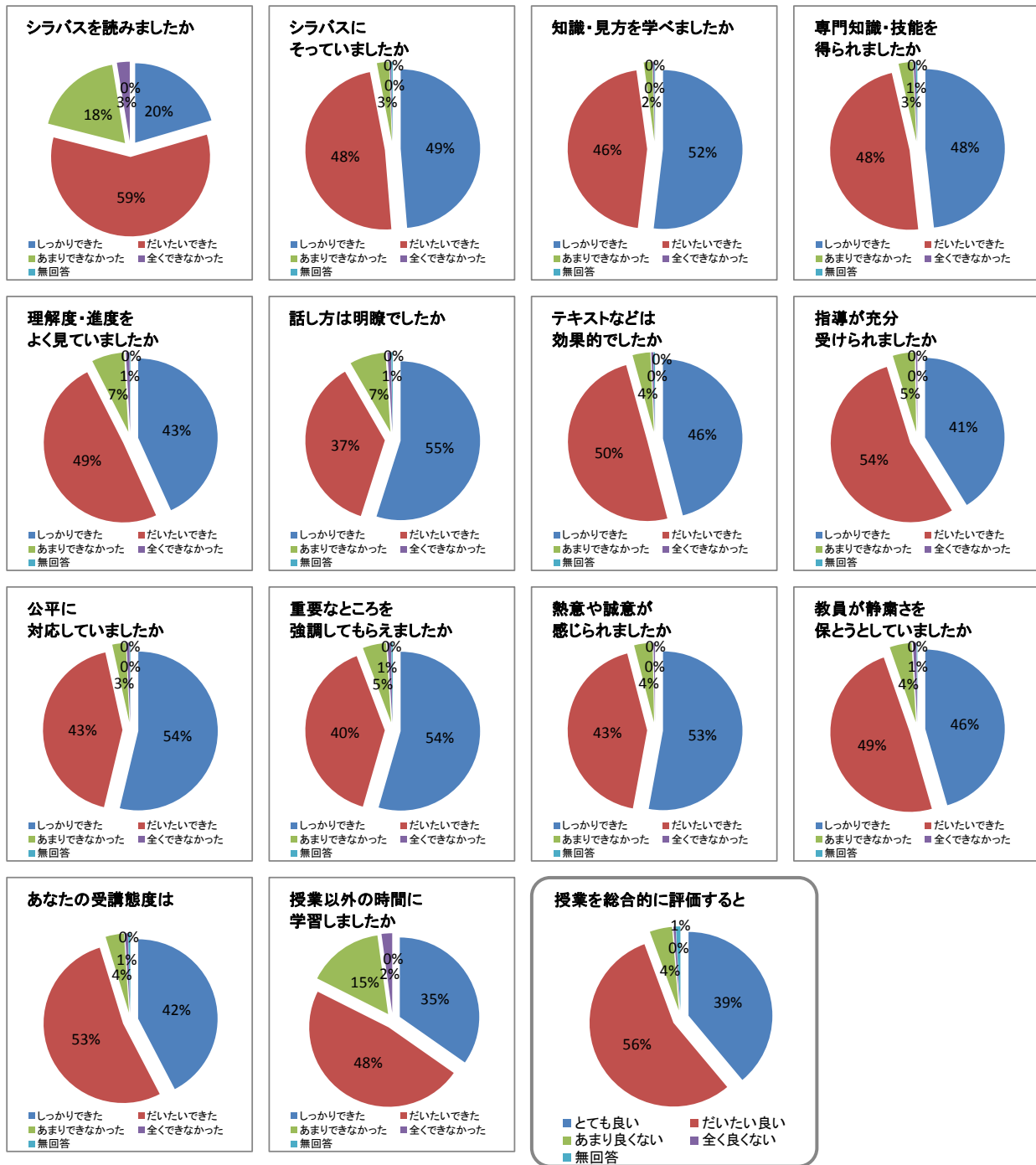
## 前期授業評価 『学生から教員のみなさんへ』

平成 29 年度前期に全学科で、学生による授業評価を実施しました。結果のまとめを以下に示します。

### □ 講義系授業の結果



□ 実技系授業の結果



<結果からわかること>

1. 総合的評価

総合的評価について、“とても良い”または“だいたい良い”と回答した人は、講義系 91%、実技系 95%となっており、ほとんどの授業は肯定的な評価を得ていました。

2. 学生の自己評価

「受講態度」については、“しっかりできた”“だいたいできた”と回答した人は講義系で 91%、実技系で 95%と、昨年度前期と同程度に多くの人が肯定的に評価しました。学修成果の指標である

「知識・見方」「専門的知識・技能」についても講義系で96%、実技系で96～98%の人が肯定的に評価しており、ほとんどの人が昨年度前期と同じかそれ以上に、新しい知識や技能の習得を実感していました。講義系の「理解」を見ると、91%の人は授業内容を概ね理解できており、昨年前期(83%)よりも理解度が上がりました。

昨年度も課題であった講義系の“授業以外の学修”は、今年度もあまり伸びておらず、24%の人は予習や復習ができなかった様子です。授業内で教員が呼びかける・時間外課題を出す、など、今後も引き続き改善方法を考えていく必要があります。“シラバス”を読んだ人は昨年度と同様に、講義系で82%、実技系で79%と多く、シラバスの確認は定着してきたようです。一番気になる評価方法だけではなく、授業目標や到達指標、オフィスアワーなども授業開始前に把握しておきましょう。

### 3. 教員に対する評価

講義系の教員の「話し方」「テキストの効果的使用」「文字の見やすさ」「重要などころの強調」という教授方法に関する項目は81～94%で、昨年度よりも評価の幅が広がりましたが、多くの学生から肯定的評価を得ていました。実技系の教員も、「話し方」「テキストの効果的使用」「重要などころの強調」「十分な指導」「公平な対応」が92～97%と、昨年前期同様、高評価を得ていました。

教員の「熱意や誠意」「参加の促し」「静粛さを保つ」等の学生への働きかけについては、講義系で87～94%、実技系で95～96%と多くの学生から肯定的評価を得ていました。以上のように本年度も多くの教員が熱意をもって授業を行っており、学生にもそれが伝わっていることが示されました。

## 前期授業評価『教員から学生のみなさんへ』

平成29年度前期授業評価に対する教員(非常勤を除く)から学生のみなさんへの回答をまとめました。

### 【幼児教育学科】

#### ◆ 図画工作 I

##### 1. 授業評価の結果に対するコメント

図画工作は免許・資格にかかわる科目となっています。毎年4月に図画工作について聞くと「嫌い・苦手」と答える学生が約半数いますが、今年度は8割程度の学生が「嫌い・苦手」と回答した中でスタートとなりました。苦手意識のある学生にはその意識を払拭できるように、また、図工が「好き・得意」な学生には更に踏み込んだ技術や表現の修得をして欲しいと願い、苦手な学生でも表現を楽しめる様に授業内容に工夫をしています。

多くの自由記述から、学んで欲しい描画の基礎的な知識と技術、様々な素材での制作や技法について楽しく習得している様子が伺え嬉しく思います。

また毎行っている、折り紙の取組みにも多くの学生がその必要性を感じながら取組んでいることを嬉しく思います。折り紙帳の仕上げは宿題になっているため、全員が授業外で制作に取り組んでいるはずですので、自己の取組み評価でも授業外の取組みという認識を持って、しっかりと取組んで貰えると

良いと思います。

## 2. 今後の授業における目標

自由記述では多くの学生が「自由に描くことができたので楽しかった」という感想を述べていることから、今後も造形表現は自由であることを学生に理解して貰いながら、苦手意識の払拭につながるような授業を行いたいと思います。

また、各制作の前に評価の観点を説明して、ルーブリックを活用しながら評価をしてきましたが、更に強調すべきところが伝わるような話し方や資料の作成に心がけ、作品や制作過程に対して更に個別に声を掛けながら指導の充実を図り、個々の満足度を上げられるようにしていきたいと思います。

## 3. 受講学生に対する要望

図画工作では作品を丁寧に完成させること、作品と制作過程を振り返りレポートを書くこと、また毎回折り紙に取組み折り紙帳を作ることが課題となっています。欠席や忘れ物があると作品を完成できず評価することができません。忘れ物のないように、しっかり取り組んでください。欠席した場合は授業内容や提出物などを確認に来てください。

また、制作レポートには感想を書くのではなく、作品とその制作過程を振り返り考察したことを書きましょう。制作に必要な材料や手順を間違いの無いように記入して提出できるよう心がけてください。

## ◆保育原理

### 1. 授業評価の結果に対するコメント

自由記述から、具体的な保育事例からの読み取りが大きな学びの一つとなっていることが分かりました。保育者を目指す学生ならではの保育実践への関心の高さと、この授業を通して学んでもらいたい保育の本質的な内容が上手く結びついていて感じます。また、毎授業前に行った絵本の読み聞かせについても学生の満足度が高く、保育技術の習得に向けた授業内の取り組みとして継続していきたいと思います。一方で、保育制度などの内容についての自由記述はなく、昨今変化が見られる保育制度やプラン、改定後の保育所保育指針や幼稚園教育要領といった重要事項にも関心を高めてもらいたいと思います。また教員の取り組みよりも学生の取り組みに関する評価の方がややポイントが低く、学生の真摯な学びの姿勢を感じるとともに、1人ひとりの自己課題に答え切れていない点があると感じました。

### 2. 今後の授業における目標

教科書等の資料の有効活用、P Pや写真、映像等の視覚教材を用いた授業を通して、保育事例のさらなる具体化を図りたいと思います。また学生が保育者の援助について自ら思考し探求していく時間や、授業外での取り組みと授業内容とで相互的に学べる機会を充実させていくことが課題です。

### 3. 受講学生に対する要望

授業内で保育事例を扱ったときの真剣な表情や、受講姿勢が印象に残っています。将来保育者になりたいという熱意や、実践場面を「楽しい」「おもしろい」と感じる気持ちを今後も持ち続けてもらいたいと思います。

## 【デザイン美術学科】

### ◆似顔絵

#### 1. 授業評価の結果に対するコメント

初めて似顔絵の授業を評価対象に選んだが、評価は概ね良好だったように思う。この授業は人の顔をよく観察し、正しく描けるようになることが何より重要なので、描く対象の学生を変えながら何度も反復練習をすることになり、単調に感じる学生がいるのではとの懸念も多少あったが、特にそういった声も聞かれず、皆しっかりと取り組んでくれたようである。

#### 2. 今後の授業における目標

授業はすでに長年行っており、外部からの似顔絵描きの依頼も多く入ってくることから、非常に実践的な授業でもある。初めて会う人の顔を描きながら会話をするというのは、コミュニケーション能力を高めるためにも有効であることから、できるだけ多くの学生に、依頼を受けられるだけの力を付けていくことが、今までもこれからも重要になると思っている。

#### 3. 受講学生に対する要望

2.でも書いたが、コミュニケーション能力を高めるのに有効な授業であり、それは反復することで慣れ、培われていくものだと思う。学生の中には、他者と対面することに強い緊張や照れを感じる者もいると思うが、臆することなく目の前の人（描く対象）と向き合って、描くこと以外のスキルも高めてほしい。

### ◆音楽療法入門

#### 1. 授業評価の結果に対するコメント

教養科目で毎年授業評価を受けている。全学科が自由に着席し授業を受ける形で、授業に興味がない学生は私語をしたり寝たりしている場合があり、毎回私語については注意をしていた。音楽療法について専門的な内容の講義を受ける機会は音楽総合学科以外の学生についてはおそらく最初で最後であろうと思うので、自由記述にあるように知らないことを多く学べたという感想が多く得られるように、今後も内容の改善、向上に努めてゆきたい。

#### 2. 今後の授業における目標

授業評価の内容については概ね平均あるいは平均よりやや良い評価を得ているが、授業外での取組については平均よりも低い（平均 3.0 に比べて 2.8）数値となっている。あまり課題を出していなかったこともこの数値につながっていると考えられる。また、文字や書き方、資料の活用についても平均より低い数値となっており、読みやすくわかりやすい表記や、資料の活用については今後改善してゆきたい。

### 3. 受講学生に対する要望

教養科目を受ける意義をあまり感じていないように見える学生がいる。教養科目は自分の専門科目と異なるため、また、そもそも人数制限などの理由で自分が受講したい科目ではなかったかもしれないのだが、どのような分野でも面白いと思えると自分の教養が深まるものである。もともと興味のない分野を楽しく学んでもらえるような教員側の工夫が必要であるが、学生にも教養科目を学ぶ機会を大切に思っている。

## ◆デジタルコミック

### 1. 授業評価の結果に対するコメント

こちらの意図した進行・講義内容は概ね学生側に伝わっていると思われた。

### 2. 今後の授業における目標

唯一数値の低かった「資料の活用」の項目であるが、これも学生側には伝達済である。我々の仕事は「書店・ネット等で得られる情報」以上の事柄を学生に伝える事であり、それは我々各業界のプロが今までこなしてきた仕事で培った「制作現場」の「経験」「知識」「ワークフロー」等、決して上記には載っていない事柄である。言い換えれば「業界で生き抜く為の現場の知恵」だ。よって不用意に資料を与えてしまっては学生の向上速度は確実に下がる。しかしながら今後を見据え中長期的な戦術として若干は資料を選び活用する予定である。

### 3. 受講学生に対する要望

真面目に取り組みなさい。必ず誰かが観てくれています。

## ◆情報デザイン基礎

### 1. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組に対する評価では、おおむね平均点もしくは少し高い評価となった。しかし、授業外は、[全学 3.1][学科 3.0] [担当科目 3.0]と全学に比べ低い値となった。授業時間以外の学習においても、もっとわかりやすく意義を説明する必要性を感じた。

教員の取組に対する評価では、9項目中8項目は、平均点もしくは少し高い評価となった。しかし、強調は、[全学 3.5][学科 3.5] [担当科目 3.4]と全学と学科に比べ低い値となった。優先順位をしっかりと意識できるように指導する必要性を感じた。

自由記述において、「初めて知ることがたくさんで、いつも、あたらしい発見があり、授業時間外でも制作したいと思いました。」と書いて頂いた。授業時間外の充実の答えのひとつがここに示されていると思う。このコメントはもちろんのこと、すべてのコメントに真摯に向き合い、これからの授業に活かしていきたい。



## 2. 今後の授業における目標

授業のねらいをしっかりと伝えた上で、学生の行動から動機づけ支援を行う。個々の到達度合いや今後の課題についてわかりやすく説明する。

## 3. 受講学生に対する要望

変化の激しい情報社会では、問題の多くは、「個別の案件対応」「暫定的処置」で対処していくことを、認識する必要があるでしょう。そうすれば、PDCAの有用性を理解することができると思います。

あるべき姿を見つめ、現状とのギャップにある問題と向き合ったうえで要因を探り、有効な対策立案ができるように、科目内の課題を遂行する中で、問題解決能力を身につけていけるように、一緒にがんばりましょう。

### ◆モデリング

#### 1. 授業評価の結果に対するコメント

実技演習なので全体的な指導だけではなく、学生一人一人の能力に合わせて授業を進めることが多い。指導していく中で公平を重視して、個々の能力を伸ばす手助けができたと思う。

#### 2. 今後の授業における目標

個々の学生への指導内容をしっかり把握し、きめ細やかな対応をこれからも心掛けていきたい。

#### 3. 受講学生に対する要望

授業内容によって得意不得意があり、授業時間内を有意義に過ごせない学生はどんどんわからないことを聞き、発言してほしい。

授業内で話し合えるような環境作りをしていきたい。

## 【音楽総合学科】

### ◆音楽理論 I

#### 1. 授業評価の結果に対するコメント

全体的に全学平均よりも上回る評価であったが、自己の取り組みに対する評価の中の「理解」に対する評価は全学平均よりも低かった。この科目は学生が理解するのに苦労を要する科目であるため、それが評価にも影響していると思われる。しかし中には、自由記述で「難しかったが楽しく授業ができた」と書いた学生も居り、難しい内容を前向きに受講してくれた学生がいたことは大変嬉しく思う。また、「雰囲気」の評価も低く、静粛な雰囲気あまり保てなかったとのことのようなのだが、講義授業ではあるが、学生同士で教え合いながら問題を解くことも取り入れており、それが静粛な雰囲気とはならず、こ

のような評価になったと思われる。静かに講義を聴く時間、学生同士話し合い協力しながら問題を解く時間など、メリハリをつける必要があると感じた。

## 2. 今後の授業における目標

今回、評価が低かった項目を改善していきたいと思う。「理解」については、授業の進め方を再検討し、理解に繋がる授業を提供できるように、試行錯誤しながらでも改善していきたい。また、自由記述の改善した方がよいところで、進行ペースが少し早く、次にいってしまうと大変、という意見があった。限られた時間の中で、学修する内容量が多いため致し方ないことではあるが、学生の理解にも繋がることでもあるので、学生の様子をよく見ながら、ペースや量を考えて進めていきたいと思う。

## 3. 受講学生に対する要望

前期の授業では、本当に皆よく頑張ってくれて、積極的に取り組んでくれたのではないかなと思う。覚えるべきことをしっかり覚えないと次に繋がらない、次の内容が理解できない、という科目なので、最低限、覚えるべきことは覚え、学修する項目ひとつひとつを確実に身に付けて、後期も是非頑張ってもらいたいと思う。少しでも分からないことは残さず、遠慮なく積極的に質問して理解に努めてほしい。

## 【歯科衛生学科】

### ◆摂食・嚥下リハビリテーション学

#### 1. 授業評価の結果に対するコメント

学生の自己の取組では、学科平均とほぼ同値であるが授業外は低い結果となり、教員の取組に関する評価では、学科平均とほぼ同値でした。

学生の自由記述の良かったところとして、「すごく分かりやすい授業でした。」、「毎回の授業の進むスピードがとても速くついていくのが大変でしたが、次の授業でフィードバックを必ず行ってくれるので不明な点も確実に理解できた。」等肯定的な意見が多数ありました。一方、改善点として「授業のスピードが速かった。」、「スライドが速い」、「間接訓練等の実習時、次々と進んでいくので、分からない時があった。」という意見もありました。この科目は、前半 8 週が基礎系、後半 4 週が応用編の構成になっており、担当教員も前半、後半で異なります。当該科目に限らず時間数に限りがある中、いかに学生の理解度をあげ授業を進めていくのか、教員にとって永遠の課題であると常々感じています。

#### 2. 今後の授業における目標

学生からの改善点より課題としてあげられるものとして次の 2 点が考えられます。まず 1 点目は、「授業のスピードについていけない学生に対する対処法」、2 点目は、「実技習熟度の向上」です。目標として、1 点目については、授業外の学生自身の自己の取り組みが低かったので、特に予習をしっかりと行うように周知徹底し、授業のスピードについていけるようにします。2 点目については、授業計画を見直し視聴覚教材をより多く取り入れ、実技の習熟度が高められるように工夫していきます。



### 3. 受講学生に対する要望

特に2年生前期の授業形態は空き時間が少ないため、体調管理に心がけて頂きたいと思います。自己の健康管理をどのようにしたら良いのか、自分自身で考え授業準備をしっかりと行いましょう。授業を漠然と聞いていても理解はできません。予習・復習をしっかりと行い主体的な受講を望みます。

## ◆ 歯科衛生士概論

### 1. 授業評価の結果に対するコメント

学生からの総合評価としては、平均的評価だった。入学してすぐ歯科衛生士になるための心構えを伝える教科でもあるため、体験実習やDVDなど入れたことで、学ぶ姿勢が学生の自己評価のなかでは高かった。しかし、レポートを持ち込んだ定期試験でもあるため、学生がパワーポイントを書き留める時間が少ない、書き写すことが多いなど、余裕がないと書いた学生もあり、文字の書き方に関して評価が低い原因になったと思われる。

### 2. 今後の授業における目標

昨年も課題としていた配布資料をもう少し簡潔にし、まとめ易いものにもっと改善していきたい。また特に強調したい内容が分かるようにパワーポイントを工夫していきたい。学生が考える時間とまとめる時間に余裕がなかったことから、内容を見直し考えていきたい。昨年の目標とした学生への質問やグループワークによる学習の導入をすることで、学生が主体的に学べるようにしたことを、今後も実施していきたい。

### 2. 受講学生に対する要望

パワーポイントの文字に頼らず、教科書も活用し、プリントに取り組むことも必要である。レポート課題をまとめながら、専門用語、言葉の意味を少しずつ覚えて今後の学習に活用しながら慣れ、理解できるようにすることで、今後の学習意欲を高めるのに役立てて欲しい。

## ◆ 口腔解剖学 I

### 1. 授業評価の結果に対するコメント

本年度は全ての評価項目にて全学、学科の平均以上の評価を頂きました。しかしながら、「自己の取組に対する評価」では、シラバス、授業外の学習という点で若干低めの評価でありました。学生個々での取組み方の相違はあるかもしれませんが、授業開始前にシラバスの重要性を伝えるとともに再確認する必要があると感じました。また口腔解剖学は基礎科目であり、取りかかるのに若干億劫になりがちな教科であることが、授業外での学習への取組みという点で低いのかと考えられましたが、それであるからこそ平素からの反復の学習が重要であることを伝える必要性を感じました。

また、「教員の取組に対する評価」では平均以上の評価をいただきました。特に重要項目の強調、話し方といった項目にて高い評価をいただきましたが、試験への出否のみならず、最終的には全てが重要になってくるということを伝えていきたいと考えております。また、資料の活用という点では大変骨の折

れる作業でありましたが講義毎に資料を配布するように致しております。視覚的に捉えやすいように「動くスライド」を重視しているため、紙媒体にした場合若干見づらい部分もあるかもしれませんが、後で見返せるのでそれでよしとせず授業内でしっかり咀嚼して欲しいと思います。

## 2. 今後の授業における目標

最も重要なことは学習意欲の向上であります。単に覚えるのではなく、理解することが大切です。極力、対話を重視した双方向性の講義を心がけているつもりではありますが、まだまだ不足している部分も多いと考えます。そのためには、今まで以上に積極的にコミュニケーションを取り、質問や発言をしやすい雰囲気作りを重要視していきたいと思います。

またコメントの欄でも記載致しましたが、講義毎の資料の作成、配布は非常に労力を必要とします。しかしながら例年好評をいただいておりますので、来年度も継続して参りたいと考えております。さらには是非覚えておいていただきたい強調したい部分に関しては、より興味を持っていただけるように音声のバリエーションを増やしていきたいと考えております。

## 3. 受講学生に対する要望

自分自身のポテンシャルをもっともっと信じて欲しいと思います。壁にあたっても一つ一つ解決していけば、必ず目標を達成できるようになります。ひいては自分自身が育ち、自己学習、自己解決できる力を育てていただきたいと思います。その繰り返しにより本当の力が身についてくるものと考えます。

# ◆歯周病予防技術法 I

## 1. 授業評価の結果に対するコメント

今回の授業評価では、総合評価は平均的である状態であったが、「話し方」と「進度による指導」の評価が低かった。「話し方」については、全体に話すスピードが早い傾向があり、十分な理解ができないままに次に進むことが多かったとの記述が多かった。また、実技練習時間をより多く確保したいという記述もあったため、授業内で実技内容の説明・実習を繰り返し行う中で、要点をさらに解りやすく説明し、効率よく実技を行えるようにしたい。

自由記述の中で、「デモンストレーションが見にくい」との意見があった。複数学生に囲まれた状態で、かつ狭い口腔内で施術されるため、要点の説明を受けながら、個々が正しい操作方法を確認することが困難であると考え。見学する位置を随時交代し、操作のポイントを行う際の施術を学生の理解度に合わせて、繰り返しみせることが必要である。

## 2. 今後の授業における目標

学生の理解度を確認しながら、授業を進めていきたい。そのために話すスピードについては要点を整理し、理解しやすい内容を考慮しペースダウンする。デモンストレーションは、操作のポイントを強調して説明し、繰り返し見やすい位置で見学するよう促す。その後、複数の教員で全員の席をより多く回り、手を添えて正しい施術方法を体得させるなど、じっくりと指導を受け、技術向上を体感できるようにしていきたい。

### 3. 受講学生に対する要望

この授業は、歯周病の予防・治療の専門的技術である歯石除去法の技術を修得します。それぞれの修得状況は個々に異なりますので、できなかった訓練内容については、セルフトレーニングを行い、必要な技術水準をクリアすることを目指してください。

また、講義・実習中に理解が不十分だと感じたら、学生同志で相談するのではなく、挙手をして教員に尋ねることが上達への近道です。授業外の時間を活用して積極的にフィードバックに取り組んでもらいたいと思います。

## ◆発達口腔保健演習Ⅱ

### 1. 授業評価の結果に対するコメント

体験型の授業を行い、ライフステージごとのニーズを汲み取った保健指導の必要性に、学生自身が気がつくことを目標にしたつもりである。学生の自己評価からはそのことに気がついてくれたように感じられたが、保健指導につなぐには説明や資料が不十分だったので、配布資料の内容を改善していきたい。学生一人一人の理解度に差があることも考慮にいて、授業の展開についてきているかどうかを判断しながら進めなければいけなかったと、評価コメントを読んで感じた。

### 2. 今後の授業における目標

今後は今回の評価を授業にいかして、授業を細かく区切って学生全体が内容を理解できているかどうかを確認しながら、授業を進めていきたい。歯科衛生士の仕事の素晴らしさ、やりがい等は引き続き伝えながらも、体験型の授業の中で自分で気づいて、保健指導につなぐことができるようにしたいと思う。また、理解を深めることができるように説明を適宜に増やして、授業に臨むようにしていきたい。

### 3. 受講学生に対する要望

授業の中の一つ一つ理解できなかったところなどを積極的に質問をしてもらいたいです。それによってどの部分でつまづいているのかが理解できるので、ワンステップごと確実に進めていくことができると思います。あなたたち自身も受け身にならずに授業に集中できるように、生活リズムを整えて授業に臨んでもらいたいです。

## ◆歯科保健指導基礎

### 1. 授業評価の結果に対するコメント

【自由記述】の良かったところで、「わかりやすくていねい」とあったが、改善した方がよいところでは、「授業のペースが早い」とあった。学生それぞれ感じ方が違うので、全体を把握すべきである。

「歯を磨くことに対して意識が高くなった」という記述があり、この科目を学び、実際に日常に活かしてくれたことをうれしく思う。

## 2. 今後の授業における目標

改善した方がよいところで、「授業の進むペースが早い」というコメントが多くあった。スライドとプリントの見直しをし、学生全体の理解度を把握して進めるよう努力したい。

## 3. 受講学生に対する要望

分からない所などがあれば、オフィスアワー等活用してほしい。

# 【看護学科】

## ◆ 病理学

### 1. 授業評価の結果に対するコメント

- ① 視覚的に興味をもてる授業を心がけた
- ② プリントにて要点を明確にした
- ③ 国試を意識した授業を心がけた
- ①～③の意図を意識したが、学生から厳しい評価を受けた。  
学生の評価を真摯に受け止めて、今後の授業にいかしたいと考えている。

### 2. 今後の授業における目標

学生が授業の要点を理解しやすいように、さらに工夫した授業を心がけたい。

### 3. 受講学生に対する要望

看護師の国家資格に合格するためには、多くの医学用語に興味がないと困ります。そのためには、自主的な勉強を習慣づけることが重要だと思います。

## ◆ 看護学概論

### 1. 授業評価の結果に対するコメント

専門職である看護師を目指して大垣女子短期大学へ入学されて初めての授業であったと思います。この看護学概論には、「看護とは何か」ということを求めて、科学的思考を深めると共に、看護の価値とコミットメントしていく力をつけていくことが重要だと考えて取り組んできました。

学生の皆さんは初めて聞くような理論家の考えや用語が多く、理解していくのに時間がかかったことだと授業の様子から感じています。その状況がコメントや結果評価に出ていると感じました。

### 2. 今後の授業における目標

学生の皆さんの知識・理解がどの程度発展しているのか、関心・意欲・態度が育成されていくように、

また、どのように感じているのか（思考・判断）から表現される意見を大切にしながら、学びを深めていけるよう授業を進めたいと思います。

## 2. 受講学生に対する要望

看護専門職としての道を歩み始めた学生の皆さんには、学びに対して積極的に取り組んでほしいと思っています。一日一日の学びを大切にして「読む・調べる・まとめる・理解する」力を自ら獲得していただきたいと思っています。そのことが、生涯にわたり看護という職業と共にある自分の人生を豊かなものになるよう取り組むことにつながります。

専門的知識と技術は対象である患者を幸せにすることができます。そのことによって自分も幸せをつかむことができます。このような自分創りとして、一日 30 分いろんな分野の本を読むことを勧めたいと思っています。

## ◆ 看護制度論

### 1. 授業評価の結果に対するコメント

『看護制度論』は 3 年生の選択科目であり、受講者は 30 名と少なかつたため、落ち着いた環境下で授業を進めることが出来ました。

この授業を選択した学生は、国家試験対策として看護制度の知識を身につけたいと希望する学生が多数を占めていました。しかし、国家試験対策だけでなく、自身の経験談や時事問題を取り上げながら、少しでも授業内容に興味を持てるように、雑談を交え「生活」と「制度」をリンクさせた内容になるよう工夫したところ、「わかりやすい」「楽しく興味を持てた」などの意見をいただくことができました。

項目別評価としては、昨年度も「シラバス」に関する評価が他の項目と比べるとやや低かつたため、今年度はシラバスについて毎回の授業で確認を行い、特に注意深く意識して授業を進めていきましたが、昨年度と同様の結果となってしまいました。「教員の取り組みに対する評価」に比べ、学生の「自己の取り組みに対する評価」が全体的に低いことから、授業がどのような目的で行われ、どのような成果を期待しているのかを明確に示し、学生が自ら学ぶ姿勢を身につけられるような工夫が必要だと感じました。

### 2. 今後の授業における目標

教養ミニトークも含め、学生が興味深く参加できる授業内容となるように工夫していきます。

### 3. 受講学生に対する要望

授業に対しての要望や改善してほしい点などについて、遠慮せずに申し出てください。

## ◆ 成人看護援助論(急性期)

### 1. 授業評価の結果に対するコメント

資料の提示方法、講義のわかりやすさに対するコメントがあり、効果的な教材の提供と授業ができ

たことがわかった。引き続き、臨床での経験をもとにわかりやすい講義の組み立てにつとめたい。

## 2. 今後の授業における目標

iPad を用いた e ラーニングの強化

学生のレベルに合わせた授業内容の改善

## 3. 受講学生に対する要望

講義中であっても、それ以外でもかまわないので、どんなに些細なことについても質問があれば積極的に質問してほしい。

# ◆ 精神看護学概論

## 1. 授業評価の結果に対するコメント

精神看護学概論は社会と家族、精神医学や心理学、関連法規など多岐に渡る知識が必要となり、また多くの専門用語の理解が必要となる。そんなことから学生が理解し難い表現も多くあったように感じる。パワーポイントでの授業を中心に行ったが量的に入れすぎ見にくくなったことも反省するところだと考える。伝えることが多すぎる所為か早口になっていたようで、授業内容を見直したい。

## 2. 今後の授業における目標

精神看護学概論では、教科書 (IPAD) を活用した授業を行っていきけるよう努力したい。国家試験の準備を考えると紙ベースでの教科書も必要と考え、教科書の必要ページを資料として提供したい。

## 3. 受講学生に対する要望

必要な時に教科書の参照を求めるが、それ以外は配布する資料とパワーポイントで授業を行っている。IPAD を必要以外は使用しないよう伝えるが指示に従わない学生が多く、授業態度に問題があるように感じる。

# ◆ 小児看護学概論

## 1. 授業評価の結果に対するコメント

これまで、シラバスの準備・課題の内容で、課題を課していたが、学生が理解を深められたかについては、学生の成績から感じ取れなかった。このことを踏まえ、今年度は授業前に小テストを取り入れた。その結果、学生の自己の取組に対する評価において、理解、態度、授業外の評価点が全学および学科の評価点より高い評価点を得ることができたと考える。また、学生は自由記述に、「予習の大切さを知った」「勉強のしがいがある」と記載している。このことから、学生自身の学修効果につながったと評価する。教員の取組に対する評価については、全学および学科の評価との差異はなく、特に、シラバスと雰囲気は高い点数であったことは、学生が記述している「とても楽しくてわかりやすい授業」から評価できると考え、継続していきたい。



## 2. 今後の授業における目標

小児看護学概論の理解が、小児看護援助論および小児看護演習そして小児看護学実習に結びつく授業を行なう。

## 3. 受講学生に対する要望

学生は、積極的に学修する力を養ってほしい。

# ◆ 老年看護援助学

## 1. 授業評価の結果に対するコメント

講義資料の工夫が必要と感じられた。また、基盤となる看護の考え方のみでなく、実践に向けて具体的な内容として捉えられるよう講義毎の到達目標が必要だと考えた。

## 2. 今後の授業における目標

主体的な学修となるよう、学習内容の説明だけでなく、学ぶ側のそれまでの既習内容や経験を活用した事前学修の環境づくりを行い、常に学ぶ者自身が実践過程をイメージする意識が持てる講義としていく。概念と経験を結びつける教材を工夫する。また、資格試験の合格への取組みとして、確実な知識の定着のための内容を充実していく。

## 3. 受講学生に対する要望

グループ討議や体験といった能動的な行動を設定した場面でも、受動的な傾向がある。学生自らが思考する意欲と態度を期待している。

# ◆ 在宅看護援助論

## 1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・在宅看護における看護過程の展開において、在宅看護の特徴を説明しながら、在宅によくある事例をもとに病態分析、関連図を作成させた。しかしながら、学生は基礎看護学の看護過程に関する授業と並行しての受講となり、看護過程に関するレディネスが低い状態での学習となったことから、基礎看護学での看護過程の学習進度や学生の能力（学習状況）に合わせ、シラバスを途中から大幅に変更した。改善を試みたものの学生の心理的負担となった可能性があり、シラバス評価が低い結果となったと推察する。在宅看護は統合分野の位置づけにあり、領域の専門性の教授を心掛けたが、今後はカリキュラム面の課題に対する取り組みも必要と考え、今回の評価を真摯に受け止めたい。
- ・学生参加型の授業が展開できなかった。教員からの一方的な授業になってしまい、和やかな雰囲気作りができなかったと反省し、次年度に活かしたい。

## 2. 今後の授業における目標

- ・在宅看護は統合分野であるため、来年度は他の領域の進行度を確認したうえでシラバスを作成し、学

生が効果的に学べるようにしたい。

- ・学生参加型の授業が展開できるよう、グループワークや演習を充実させていきたい。

### 3. 受講学生に対する要望

- ・アイパットに載っていないとき、すぐにインターネットに頼る傾向がみられる。本の活用が非常に乏しいと感じたため、授業中に本の紹介を数回行ったが、もっと本を活用して学習してほしい。

## ◆ 生活支援技術論

### 1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・講義で根拠をおさえ、演習の前に技術での大切なことを再度おさえてから技術演習を行うようにしたことから、学生にはわかりやすく伝わったと考える。
- ・基礎看護学の技術は看護師において基礎となるところであるので、熱意をもって指導にあたったことで、学生も熱心に授業に取り組めたと考える。
- ・演習時は各演習ベッドをまわり、学生の理解度を確認し指導するように心がけたことで、質問し易い雰囲気生まれたと考える。
- ・授業時間以外にも質問があれば、セルフトレーニング室で技術練習の指導を行ったことが、学生の理解に繋がったと考える。

### 2. 今後の授業における目標

- ・演習は基礎の補助の教員も入るため、技術面に関しては個人によって多少の差がある。このことが学生に不利益にならないようにしていく必要がある。演習前の教員調整を密にし、演習計画をたて実施していきたい。
- ・より分かりやすい技術のデモンストレーションの見せ方について考えていきたい。

### 3. 受講学生に対する要望

- ・看護技術は基礎となる技術であるので、繰り返し練習し自己の技術にしていってもらいたい。
- ・援助を受ける相手への配慮についても、考えて実施してほしい。

## ◆ 老年看護演習

### 1. 授業評価の結果に対するコメント

総じて、平均的な数値である。まずまずの達成感であるとも受け取ることはできるが、学生にはどこかで突出した実感が得られるような、特徴を出せる講義を意識したい。

### 2. 今後の授業における目標

看護過程の部分では、特に理解度の低い学生の理解につながるよう、課題や指導を強化して臨む構成を考えたい。

一般講義部分では実体験をとおして理解が深まるような講義案を展開したい。

### 3. 受講学生に対する要望

理解ができていないと感じている学生こそ、分からないことはそのままにしておかないこと。質問は随時可能なので積極的な学習姿勢を求めます。

## 【総合教育センター】

### ◆生活環境論

#### 1. 授業評価の結果に対するコメント

講義科目の特性として、知識を伝達するために教員の話が中心となりがちなので、学生のみなさんに授業への参加を促せるような聴くこと以外の学びの活動づくりに苦心しています。

知識の伝達にしても、難しい内容をいかにわかりやすく説明するか、知識と知識をどのようにつなぐことで理解にたどりつけるよう示すのか、知識とそれらの理解をどのように考えることと結びつけていくのかなど、いろいろ工夫してもなかなか思い通りにできないことが多く、「雑談が多い」「難しい」「めんどくさい」などの意見をもらうこととなります。

授業評価の結果に目を通しながら、完璧なものは無理でも、少しずつでもよりよい授業になるよう学生のみなさんの貴重な意見を踏まえて、改善していきたいと思えます。

#### 2. 今後の授業における目標

興味や関心が持てる・わかりやすい・自分なりに考えてみた・少しでも自分がよい方へ変わった、学生のみなさんがそう思える授業を目指します。

#### 3. 受講学生に対する要望

専門科目でないにしても、自分が少しでも成長していくことに教養科目の授業を活用しましょう。そのための学びというのは、「覚えること」や「テストなどでよい点をとること」が中心ではありません。

「ものごとの事実を知ること」「事実のつながりを理解すること」「事実とその結びつきについて判断しながら考えてみること」「考えたことを表現すること」などが学ぶということだと思えます。人生で学ぶことに専念できる時期は今だけかもしれませんから、できるかぎりの努力をして学びに取り組みましよう。

### ◆発達心理学

#### 1. 授業評価の結果に対するコメント

毎回の授業を準備する時には、何をどれくらい教えるかよく考え、使う教材や授業の構成などを工夫

し、学生の要望や意見も取り入れるよう心掛けていたつもりでした。しかし、授業評価の結果を見て、まだまだ足りない部分があることを実感しました。具体的には、重要なところの強調、文字の見やすさなどの評価が低かったのですが、確かに言われてみれば特に意識して工夫していたとは自分でも思えず、妥当な結果だと納得しました。逆に評価の高かった項目（シラバス、授業時間外学習）などは、特に力を入れて説明したり課題を与えたりしていたものだったので、こちらの努力もやはり伝わるのだと確信しました。授業評価は、教員自身が良いと思って進めていた授業が、受けている学生にとって実際どのようなものであったかを正直に映し出すもので、自分ではなかなか気づけない改善点を教えてくれる貴重な機会だと思うので、この結果を真摯に受け止め、後期からの授業に早速活かします。

## 2. 今後の授業における目標

授業準備を一通り終えたら、この授業を90分間講義室で聞く学生の立場になってみて、この内容で興味が持てるか、資料はわかりやすいか、集中力は保てるか、ということなどをもう一度考え直してみるようにします。自分が教えたいことを詰め込む授業ではなく、学生にとってわかりやすく消化できる内容の授業、という大前提をいつも忘れないようにします。

## 3. 受講学生に対する要望

授業に対して、感想や要望、質問があったらどんどん教えて下さい。良かったところも、伝えてもらえれば教える側の励みになりますし、良くなかったところを知ることは次回の授業の改善へとつながります。質問をしてもらえたら、分かりにくかったのかと反省し、次回の授業で補足説明をすることができます。今よりもっと楽しくわかりやすい授業を、一緒に創っていきましょう。

本学の教職員は これからも  
学生のみなさんの学びをさらに深めるために  
よりよい授業づくりへの努力を続けます



授業評価にご協力いただき本当にありがとうございました。

本学では本年度も、ほとんどの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価を受けました。これは、毎年実施している授業評価結果へのコメントをはじめとして、本学の教員が学生からの声に耳を傾け、授業改善への努力を重ねていることの表れだと思われま

す。全国の大学で、「入学してから卒業するまでの間に学生が何を学んだか」が問われている今、今後も大垣女子短期大学の特色を生かして、より質の高い教育を実践していきます。



昨年度から、総合評価が高かった教員を対象に顕彰が行われることになりました。  
平成 29 年度前期は以下の教員が顕彰の対象になりました。

「看護制度論」

